



仲間と共に

学校目標 「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」

令和7年1月7日

「願い」を基盤に 未来を描く一年に

校長 石田耕太郎

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は学校運営に係り、多大なるご支援、ご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

2025年が始まりました。今年の干支(えと)は、「乙巳(きのとみ)」となります。「乙」は植物が成長し広がっていくような意味を、「巳」は蛇を意味するため、乙巳は「柔軟でしなやかな発想と成長の年」などと言われています。

今年本校は開校61年目の春を迎えます。十干と十二支の組み合わせである干支は60通りあり、60年経つと最初に戻ります。本校も開校時の願いである学校教育目標「めあてをもち 仲間と共に やりぬく心」に鑑み、柔軟でしなやかな発想をもって三輪南小学校の未来をどのように描き、創り出していくかを地域の方々の願いを基盤として考えていきたいと願っております。そのためにも、地域の方々の本校への「願い」は考える際の土台となります。その土台は強固なものであればあるほど、すなわち具体的であればあるほど創り出すものが揺るぎないものとなります。この変化の激しい世の中は、今在籍している子ども達が社会にでるであろう10～15年先にどのようになっているか予測することがさらに難しくなっております。その中でたくましく生き抜いていくために必要な力は、本校の学校教育目標にある3つのキーワード「めあて(めあてをもち自分から動く力を育てる)」「仲間(仲間を思いやり協力して取り組む心を育てる)」「やりぬく(あきらめずに最後までがんばる心を育てる)」により育まれるものと信じております。ぜひ、学校に足をお運びいただき、子ども達の姿を参観するとともに、「願い」をお伝えいただけましたら幸いに存じます。

今年はまだ、戦後80年の節目の年となります。多くの命が奪われたあの戦争から80年が過ぎ、戦争を知る方々も少なくなってしまうました。学校だより11月号でノーベル平和賞を受賞した日本被団協事務局長である岐阜市在住の木戸季市氏について記しました。今月16日に、6年生児童が岐阜市のヒトから生き方を学ぶ「ぎふMIRAI's チャンネル【特別版】」にて、木戸氏の講演を聞く機会をいただきました(市内の小学校高学年児童・中学生対象)。5歳の時長崎で被爆され、1990年代から被爆者運動に関わられた木戸氏からどのような言葉が発せられ、その言葉を児童がどう受け止めるのか。決して忘れては、忘れさせてはいけないあの戦争に対して、未来を創っていく私たちはどう向き合っていくのか。子ども達とともに考えていくことは未来を描くことに繋がると私は信じています。



2025年初日の出
(岐阜市最高峰「百々ヶ峰」山頂より)

1月1日の早朝、岐阜市最高峰百々ヶ峰からの初日の出を見ました。眼下には、ふるさと三輪南の街並みや田畑が広がり、太陽の光にキラキラと輝いていました。山頂に至る道すがら多くの方々と「おめでとうございます」「おはようございます」と挨拶をかわしていると、いつも子ども達を見守ってくださっているふるさと三輪南の人々の温かさを思い出しました。改めまして、本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。